



夏に登攀対象となる入門コースの岩稜としては、剣沢や真砂沢から近く、登り易い位置にある源次郎尾根、八ツ峰上半、中級コースとして剣尾根が上げられる。

いずれも夏なお豊富な残雪を踏んでのアプローチ、稜上へ上がれば展望良く、高度感もあり素晴らしいルートだ。本書では剣のバリエーションの概念を掴むため

に、雪渓、岩場、岩稜の懸垂をまじえた登高、縦走と多岐にわたる要素が体験できるコースを紹介する。それは長次郎谷を登り、VI峰Cフェースから八ツ峰上半を縦走、池ノ谷乗越を経由し本峰を越えるコース。スタートとなるCフェース剣稜会ルートは高度感もあり、楽しいアルパインクライミングとなるだろう。

このコースの利点は、Cフェースが混んでいたらAフェースへ転進、時間がなければ上半縦走をやめV・VIのコルに下降するなど、状況に合わせて行動が可能なことだろう。初めて夏の剣のバリエーションに登る方には是非登ってみてもらいたい。



平谷の出合。出合の右には源次郎尾根への踏跡が見える。ここを少し下ると、長次郎谷の出合が現れる。

長いコースなので早朝発としよう。剣沢を下り、長次郎谷出合までの間、朝早い時間は雪渓が固い。足元に自信が持てなければ早々にアイゼンを使う。長次郎谷は大きな雪渓で、下半部の傾斜はあまりない。右に八ツ峰、左に源次郎尾根を見ながらの単調な登りが続く。

アプローチとベース

室堂から雷鳥沢、別山乗越を経由し、ベースとなる剣沢別山平に入る。幕営指定地は剣沢小屋と真砂沢小屋、小屋利用の場合は剣山荘も評判が良い。

クライミングノート

2級・Ⅲ